

大果甘トウガラシの品種比較

～ ‘甘とう美人’ と ‘松の舞’ が高評価 ～

1. はじめに

岩出市で栽培されている大果甘トウガラシは「ねごろ大唐」の名で定着している。その品種は‘松の舞’（丸種）が用いられているが、近年、夏季高温時の尻腐れ果（石灰欠乏症）の発生による生産ロスが問題となっている。そこで、‘松の舞’よりも生産性が高く食味が良好な品種を選定するため、現在市販されている代表的な大果甘トウガラシ品種について、その特性を明らかにした。

2. 供試品種と作型

供試品種として、‘甘とう美人’（タキイ種苗）、‘福耳’（サカタのタネ）、‘緑鯨’（愛三種苗）、‘ししपी’（サカタのタネ）、‘万願寺とうがらし’（タカヤマシード）、‘松の舞’の6品種を用いた。

作型は、ハウス半促成栽培で、2009年12月18日に播種、2010年3月18日に定植した（4月中旬まで夜間20℃加温）。

3. 結果の概要

1) 生育特性

8月上旬の生育調査において、主枝長は‘松の舞’が最も長く、続いて‘緑鯨’が長かった。主枝節数は‘万願寺とうがらし’が最も多く、続いて‘松の舞’が多かった（表1）。草勢は‘松の舞’が最も強かった。

2) 果実特性

果長は‘ししपी’が最も短く、他の供試品種は‘松の舞’より長かった。果径は‘松の舞’が最も太かった（表1）。

辛味値は‘福耳’が高かった（表1）。

食味値は、‘甘とう美人’が最も高かった。‘ししपी’はピーマン臭が強く、果肉も薄かったため、低かった（表1）。

3) 尻腐れ果発生率

尻腐れ果発生率は‘緑鯨’と‘松の舞’が高く、‘福耳’と‘ししपी’が少なかった（表1）。

4) 可販果収量（5月10日～7月29日）

株あたり可販果収量は‘ししपी’と‘福耳’が多く、次に‘松の舞’と‘甘とう美人’であり、‘緑鯨’と‘万願寺とうがらし’は少なかった（図1）。

4. おわりに

今回の試験結果から‘松の舞’に比べ、可販果収量は若干劣るものの、食味が良く、尻腐れ果の発生率も低かった‘甘とう美人’が有望と考えられた。なお、現在の栽培品種である‘松の舞’についても収量が多く、食味も良好なことから、品種の選定については、生産者とも協議しながら検討を進めていきたい。

（栽培部 奥野憲治）

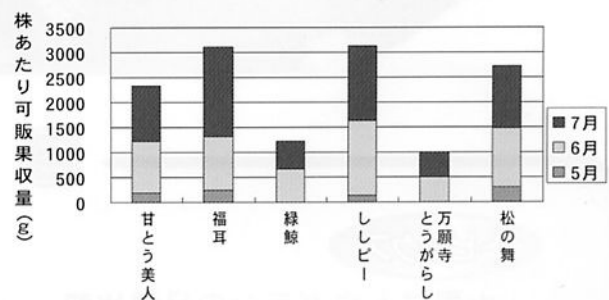


図1 大果甘トウガラシの月別可販果収量（5月10日～7月29日）

表1 大果甘トウガラシの生育特性と果実特性

品種名	主枝長 (cm)	主枝節数 (節)	果長 (mm)	果径 (mm)	辛味値	食味値		尻腐れ果率 (重量%)
						味	食感	
甘とう美人	139	24.6	139	25.0	4	3.5	3.4	16.7
福耳	162	25.6	146	23.7	27	2.3	3.2	1.7
緑鯨	167	27.3	136	18.2	0	3.1	2.6	25.6
ししपी	130	24.9	117	27.1	0	2.9	2.6	3.9
万願寺とうがらし	162	29.6	141	22.5	0	3.2	2.8	11.1
松の舞	176	28.9	129	28.3	2	3.0	3.0	22.5

注) 主枝長及び主枝節数：収穫終了後（8月2日）に各品種4株測定の平均値

果長及び果径（肩部）：6月10日、6月24日、7月8日の各日に10果調査した平均値

辛味値：6月10日、6月24日、7月8日の各日に10果調査した合計値、辛味なし(0)～やや辛い(1)～辛い(2)

食味値：果実を炭火焼きしての官能評価、‘松の舞’を基準(3)として5(優)→1(劣)の5段階評価(20名平均値)

尻腐れ果率：総収量に占める尻腐れ果の重量割合